二人の旅人　分かれた運命　俯瞰（ふかん）した笑顔の太陽は二人を見て

二人の旅人は同時に村を出発した。

晴れ渡る空。とても清々しい朝のことであった。

村人たちは二人を見送る。

「頑張っておいでよ。またいつでも帰ってきな」

村はどの家も田畑を営み自給自足。時には役所の使いや商人などから食材や生活に必要なものなどを調達する。年に数回お祭りをしてお酒を飲む。子供たちは季節に関係なく外ではしゃぎ回り楽しむ。平穏な村であった。

旅人二人も、ただひたすらに楽しい日々が待っているように思えた。

しかし峠を一つ二つ超え年月が経ち、様々な村を変遷していくと、あまり世の中は甘いことだけではないことを知る。

争いに巻き込まれたのは、二人が旅の携えとしている手持ちの袋にある財を増やそうとしたからだ。

今よりも豊かに旅をしたかったのである。

・・・とある村で盗賊などの悪党や、村人を守る奉行（ぶぎょう）などとの諍（いさか）いに巻き込まれ危機に陥る二人。

牢獄へ入れられるかもしれないという状況に陥った。
体中に傷がつき、憔悴（しょうすい）も極めた。
ズタボロになった二人。

ようやくその諍いは終わりその村から命からがら逃げ出すことが出来た二人だったが、ここで二人の価値観に相違が生じる。

「かなり危なかったぜ。俺はもうこの袋の中の銭を生真面目（きまじめ）に増やそうと頑張るのはやめたぜ。こうなりゃいっそ盗人に

でもなんでもなって遊んで暮らしてやる。牢獄にぶち込まれたらそれはその時だ」

もう一人の旅人は、彼を見て少し残念そうに言う。

「俺はそう思わないや。人生に危険はつきものだ。こういうやばい状況も潜り抜けて人は強くなっていくんだ。俺は今後もコツコツと、例え馬鹿にされてもこのまま頑張っていくぜ」

二人は道中を共にし、寒さ時には飢えもしのぎながら歩んできた友であっただけに、その分かれ道は寂しいものであった。

・・・二人は別々の道を歩みだした。

体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました。